

SONORA XJ

完全無処理版による UVパッケージ印刷

株式会社大鹿印刷所



日本初!「無処理版によるUVパッケージ印刷」を実用化するためにSONORA XJの導入を決断。月平均5,000枚使う刷版をすべてSONORA XJに変えて、環境負荷の軽減と年間500万円以上のコストを削減。

観光土産市場で異彩を放つパッケージ印刷会社

岐阜県西部、揖斐郡大野町に本社を構える株式会社大鹿印刷所は、明治33年(1900年)の創業以来、3世紀にわたる歴史を刻んできた老舗パッケージ印刷会社である。主な事業領域は観光土産として駅やSA、テーマパークなどで販売される菓子・食品類で、折り箱・貼り箱から包装紙、個包装、軟包材、トレー、ラベルなど多種多様な包装関連資材を日本全国の顧客に提供している。顧客にとって最大のメリットは商品包装関連の仕事すべて同社に任せられることだ。製造拠点は全国6ヵ所。主力の本社工場を中心に全工場が連携して、企画デザインから印刷、加工、製函、納品まで一貫したバリューチェーンを構築。その高い品質と安定した供給体制には定評がある。それだけではない。

「UV印刷3万枚の耐刷性を目標にテストを行い、SONORA XJなら問題ないと判断して採用を決めました」

印刷会社の枠を超えたすぐれた企画提案力、コンサルティング力も同社の強みになっている。売れるパッケージデザインの提案はもとより、広告戦略からブランド構築、販路開拓、ときには新商品の開発アイデアまで、顧客の業績拡大につながる商品づくりをお手伝いしている。従業員数は約230名で、社内に50名規模のデザイン部門を擁しているのも同社のアドバンテージになっている。



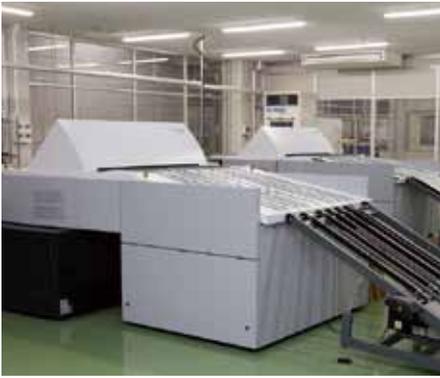
取締役社長 大鹿 道徳 氏



生産部 部長 浜武 信義 氏



生産部 CTP 課 課長 古田 広行 氏



2 台の CTP が月平均 5,000 版を出力



ニスコーター付 6 色 UV 印刷機を 2 台保有



数多くのパッケージを展示したアイデアルーム

SONORA XJ の導入目的は環境対策とコスト削減

同社が SONORA XJ プロセスフリープレートを採用したのは、2015 年 11 月のこと。その経緯について取締役社長の大鹿道徳氏は次のように話している。

「産廃を無くすためにもいずれは無処理版を使いたいと考えて、開発動向にはつねに注意を払っていました。ただ UV 印刷機で使える版がなく、結果として SONORA XJ の登場まで 10 年近く待たされました。油性印刷機と UV 印刷機の両方を一気に無処理版に変えて、現像廃液ゼロを目指していた当社にとって、SONORA XJ は本当に待ち望んでいた製品でした」

同社は 2001 年に ISO14001 を取得するなど、環境負荷を軽減する取り組みを長年にわたって進めてきた。今も全館 LED 化、ソーラーパネルの設置、ハイブリッドカーの導入など様々な試みを実行に移している。SONORA XJ の採用もまた、こうした環境対策の一環だった。2015 年夏に SONORA XJ が発表されると、同社はすぐに本社工場でテストをはじめた。印刷部門には油性印刷機 2 台と UV 印刷機 3 台があり、2 台の CTP が月平均 5,000 版を供給している。これをすべて SONORA XJ に変えて、現像処理工程を一掃しようという生産部一丸となったプロジェクトがスタートした。

最大 3 万枚のベンチマークをクリアし、印刷品質の向上もあわせて実現

省電力 UV では使用実績のある SONORA XJ だが、パッケージ向け UV 印刷機での運用は同社が初めて。どういう結果が出たのか、耐刷性のベンチマークを最大 3 万枚と設定してテストを行った生産部 CTP 課 課長の古田広行氏は次のように話している。

「UV 印刷機でプロセス 4 色 3 万枚の耐刷実績が得られました。ただ一部の UV 特色インキでは耐刷性が極端に落ちました。視認性も今は改善されましたが、当初は課題のひとつでした。ただ、いずれも現場での運用方法を変えれば解消できると判断し、導入が決まりました」生産部部長の浜武信義氏は、コダックのサポートを高く評価した。

「当初から作業時に傷が付きやすいという懸念はありましたが、コダックから『合紙を入れて運搬しては』とアドバイスを受け、実行することで不安もなくなりました。無処理版は初めてで分からないことばかりでしたが、コダックの適切なアドバイスと問題解決に向けた迅速で丁寧なサポートのおかげで、うまく運用できるようになりました」コダックもまた「無処理版による UV パッケージ印刷」という前例のな

い挑戦を全力で支え続けた。その結果、同社は現像廃液ゼロを見事に達成し、環境負荷を大きく軽減した。年間約 100 万円の廃液処理費用もゼロになり、現像液・ガム液の購入費や現像機の維持費用などをあわせると、コスト削減効果は合計で年間 500 万円にも達した。現像工程がなくなって品質も向上した。古田課長は「現像で飛んでしまうハイライト部の網点が、1% まで忠実に再現できる」とその品質に驚いている。今では現場のオペレーターも SONORA XJ の扱いに慣れて、普通に刷れるようになり、耐刷性もアップしたという。機上現像性も非常に良く、特に油性印刷機は刷りやすく、刷り出しも速くなったそうだ。水幅の狭い UV 印刷ではスキルが必要だが、プロだから問題はないと大鹿社長は笑みを見せる。元々、環境への意識が高かった同社だが、SONORA XJ への全面切り替えを機に、ノンアルコール化、パウダーレス・低臭インキなど環境配慮型資材の採用も一気に加速されたという。

「SONORA Plate Green Leaf 賞」を受賞

パッケージ印刷には多種多様な用紙／インキが使われている。UV 印刷なら刷版への負担もそれだけ大きくなる。今のままで問題なく印刷できるのになぜ、と現場も変化を嫌った。それでも同社は無処理版への挑戦をやめなかった。SONORA XJ 使用開始時の試行錯誤については運用の仕方を改善したことで、今は解消されている。当時を振り返って「大変だった」と語る大鹿社長だが、進取の気性に富んだ同社だからこそ実現できた国内初の快挙だった。その苦労はコダックが創設した「SONORA Plate Green Leaf 賞」の受賞というカタチとなって報われた。この賞は様々な環境対策を通して環境負荷の軽減に取り組み、特に優れた実績を挙げたユーザーを表彰するもので、2016 年には全世界から 8 社が選ばれた。大鹿印刷所はそのなかの 1 社で日本のユーザーでは初の受賞となった。同社が先例となって今後、UV パッケージ印刷の市場にも無処理版の時代が広がってゆくに違いない。コダックの技術とサポートがそれを支えている。



株式会社大鹿印刷所

取締役社長：大鹿 道徳
〒501-0593
岐阜県揖斐郡大野町大字上秋 357
TEL：0585-36-0001 (代)
FAX：0585-36-003
<http://www.ohshika.com/>

コダック 合同会社

<http://www.kodak.co.jp>

〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-13 TEL.03-6837-7285(営業代表)

大阪：050-3819-1266 名古屋：050-3819-1265 福岡：050-3819-1270

仙台：050-3819-1255 札幌：050-3819-1250 金沢：076-200-9583

製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com

2017-04

